

第100回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成29年10月～12月期

平成29年10月～12月期の業況判断指数（日銀短観12月）は、堅調な世界経済を背景とした好調な企業業績が景況感を押し上げ、5期連続で改善、中小企業・非製造業は6期連続の改善により平成3年11月調査以来の水準となった。

こうしたなか、トラック運送業では燃料価格上昇や労働力不足等によるコスト増加の影響を受け、経常損益はやや悪化したものの、「一般貨物」では輸送数量及び運賃・料金の水準は堅調に推移し、「宅配貨物」では運賃・料金の水準が回復基調で推移した。その結果、景況感の判断指標は2.2となり前回（▲12.7）から14.9ポイント改善、平成26年4月調査以来のプラス圏に回復した。

なお、今後の見通しは、燃料価格上昇や運転者の人材不足等が継続して影響することから、経常損益は悪化傾向となることが見込まれるため、今回から7.7ポイント悪化し、▲5.5となる見込みである。

平成30年2月9日

公益社団法人 全日本トラック協会

1. 今回（平成29年10月～12月期）の状況

① 概況

業界の景況感は「好転」とした事業者は26.2%（前回17.9%）、「悪化」とした事業者は22.6%（前回29.0%）で判断指標は2.2となり、前回（▲12.7）から14.9ポイント改善となった。

② 一般貨物

一般貨物では、輸送数量が「減少」した事業者は19.5%、「増加」とする事業者が33.6%で、判断指標は12.0となり、前回（▲0.6）から12.6ポイント改善した。営業収入（売上高）は「減少」とする事業者が21.6%、「増加」とする事業者が35.9%で、判断指標は13.2となり、前回（2.0）から11.2ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が32.1%、「増加」とする事業者が23.8%で、判断指標は▲11.5となり、前回（▲12.3）から0.8ポイント改善した。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が50.0%、「増加」とする事業者が21.4%で、判断指標は▲39.3となり、前回（3.6）より42.9ポイント悪化した。営業収入（売上高）は「減少」とする事業者が27.5%、「増加」とする事業者が31.0%で、判断指標は▲6.9となり、前回（0.0）よりも6.9ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が41.4%、「増加」とする事業者が27.5%で、判断指標は▲24.1となり、前回（▲14.3）よりも9.8ポイント悪化した。

宅配以外の特積貨物（以下「宅配以外貨物」という。）では、輸送数量は「減少」とする事業者が17.5%、「増加」とする事業者が39.7%で、判断指標は22.2となり、前回（34.0）から11.8ポイント悪化した。営業収入（売上高）は「減少」とする事業者が11.1%、「増加」とする事業者が50.8%で、判断指標は39.7となり、前回（30.2）から9.5ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が22.2%、「増加」とする事業者が36.5%で、判断指標は14.3となり、前回（▲3.8）から18.1ポイント改善した。

④ 運賃・料金水準

運賃・料金水準は一般貨物12.8（前回7.4）と5.4ポイント改善、宅配貨物は82.8（前回67.9）と14.9ポイント改善、宅配以外貨物は52.4（前回50.9）から1.5ポイント改善となった。

⑤ 実働率等

実働率は11.6（前回▲0.5）と12.1ポイント改善、実車率は9.3（前回▲0.7）となり10.0ポイント改善し、前回と比較して輸送の効率性が向上した。

採用状況は▲12.8（前回▲8.2）と4.6ポイント低下、採用状況は一段と悪化したことから、雇用状況（労働力の過不足）は100.7（前回81.5）と19.2ポイント上昇し、不足感が一層強まった。労働力不足は、運転者等への負担増にも直結し、所定外労働時間は1.2（前回▲12.0）と13.2ポイント増加、所定外労働時間は増加傾向となった。さらに、人材不足により稼働可能な車両台数の減少を補うために、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は9.3（前回6.5）と2.8ポイント増加し、貨物の再委託が増加傾向となった。

一般貨物、宅配以外貨物における営業利益の改善を背景に、経常損益は▲6.4（前回▲15.0）と8.6ポイント改善、経常損益の水準が回復基調となった。

⑥ 規模別及び取扱い品目別、地域別

事業者規模別にみると、大規模事業者は13.0（前回▲4.1）と17.1ポイント改善、中規模事業者は6.0（前回▲9.9）となり、15.9ポイント改善、小規模事業者は▲8.6（前回▲21.2）と12.6ポイント改善した。

一般貨物の景況感を取扱い品目別にみると、消費関連貨物は▲1.0（前回▲11.5）と10.5ポイント改善、建設関連貨物は2.4（前回▲9.4）と11.8ポイント改善、機械関連貨物は▲3.8（前回▲15.2）と11.4ポイント改善、その他貨物は0.5（前回▲17.4）と17.9ポイント改善した。

一般貨物の景況感を地域別にみると、東北、関東、北陸信越、中部、近畿、四国、九州は水準を上げたが、北海道と中国は水準を下げた。

2. 今後（平成30年1月～3月期）の見通し

① 概況

業界の景況感の今後の見通しは、▲5.5（今回2.2）と7.7ポイント悪化する見込みである。

② 一般貨物

一般貨物では、運賃・料金の水準が16.3（今回12.8）と3.5ポイント改善するものの、輸送数量は3.1（今回12.0）と8.9ポイント悪化することから、営業収入（売上高）は2.6（今回13.2）と10.6ポイント悪化するため、営業利益は▲18.3（今回▲11.5）と6.8ポイント悪化する見込みである。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物では、運賃・料金の水準が72.4（今回82.8）と10.4ポイント悪化するものの、輸送数量が▲17.2（今回▲39.3）と22.1ポイント改善することから、営業収入（売上高）は27.6（今回▲6.9）と34.5ポイント改善するため、営業利益は6.9（今回▲24.1）と31.0ポイント改善の見込みである。

宅配以外貨物では、輸送数量は28.6（今回22.2）と6.4ポイント改善するものの、運賃・料金の水準が47.6（今回52.4）と4.8ポイント悪化する影響を受け、営業収入（売上高）は36.5（今回39.7）と3.2ポイント悪化、営業利益は6.3（今回14.3）と8.0ポイント悪化する見込みである。

④ 運賃・料金水準

運賃・料金水準の今後の見通しは、一般貨物では3.5ポイント改善（今後16.3）、宅配貨物は10.4ポイント悪化（今後72.4）、宅配以外貨物は4.8ポイント悪化（今後47.6）する見込みである。

⑤ 実働率等

実働率は0.2（今回11.6）と11.4ポイント悪化、実車率は0.2（今回9.3）と9.1ポイント悪化するなど輸送効率は悪化する見込みである。

採用状況は▲12.6（今回▲12.8）と今回とほぼ同様の水準の見込みであることから、雇用状況（労働力の不足感）は110.5（今回100.7）と9.8ポイント上昇し、一段と人材不足感が強まる見込みである。

所定外労働時間は▲9.1（今回1.2）と10.3ポイント減少する見込みであり、貨物の再委託は4.7（今回9.3）と4.6ポイント減少する見込みである。

経常損益は、燃料価格上昇、運転者人材の不足等の影響から、▲14.7（今回▲6.4）と8.3ポイント悪化し、経常損益の水準は落ち込む見込みである。

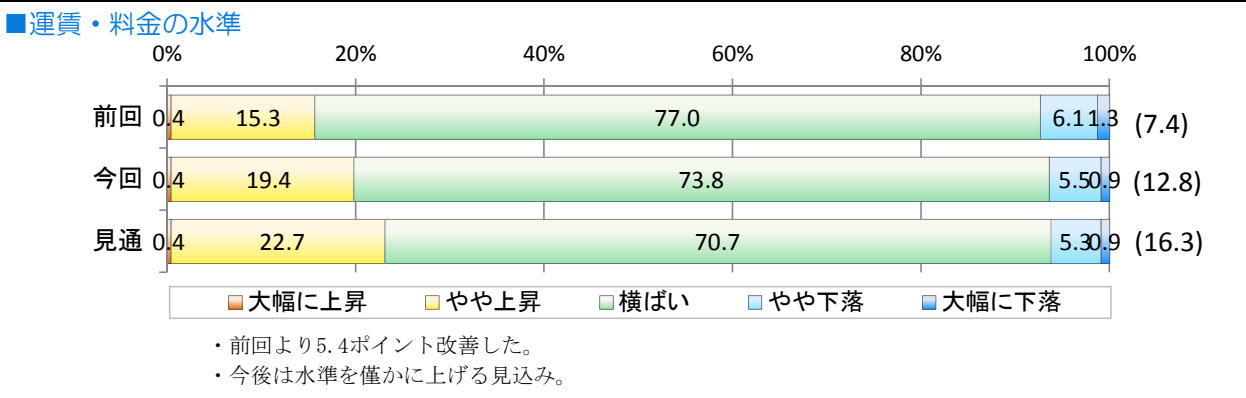
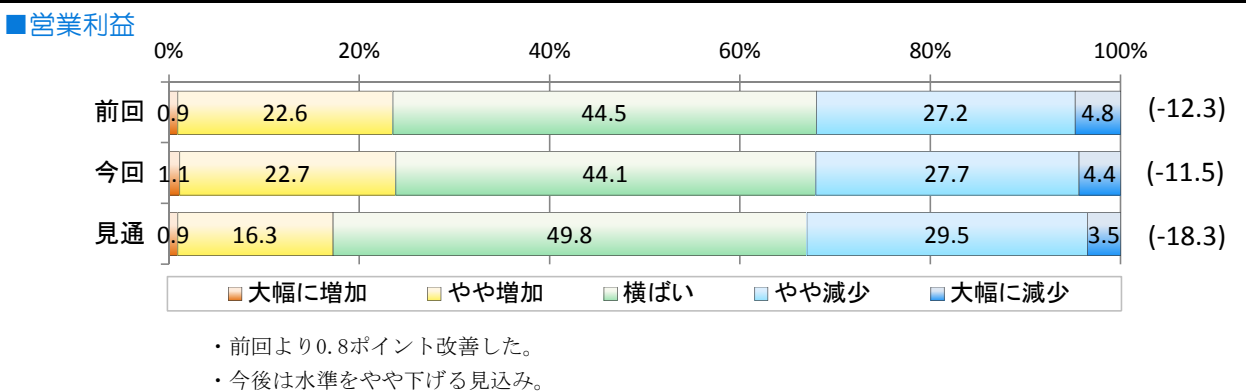
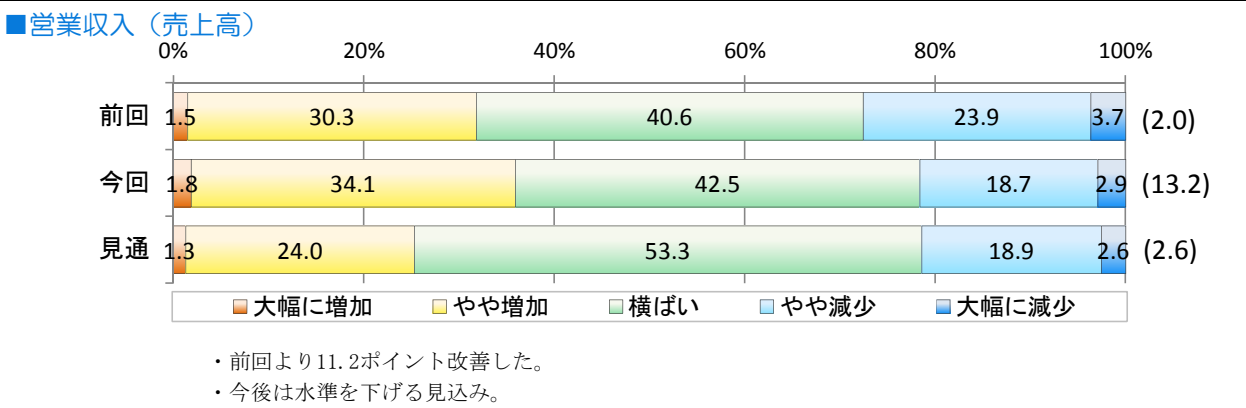
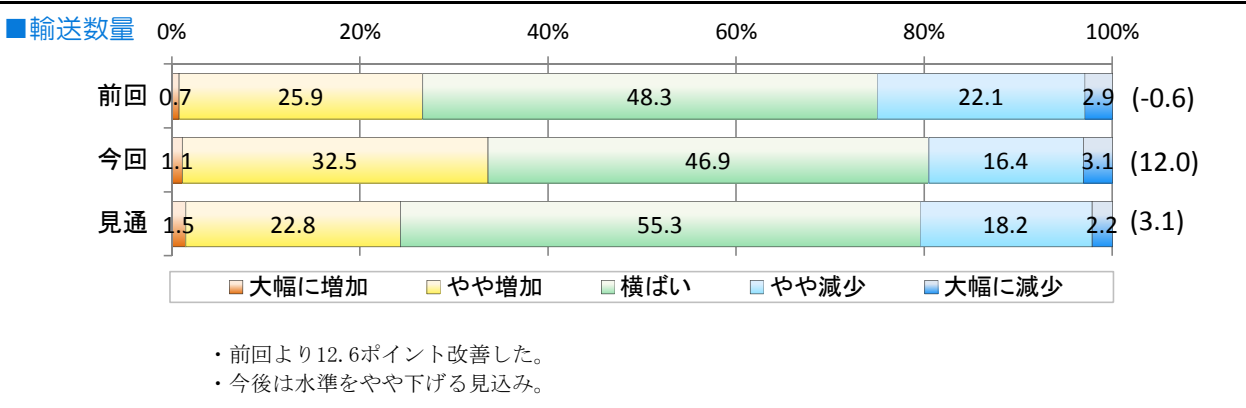
⑥ 規模別および取扱品目別、地域別

事業者規模別にみると、大規模事業者は10.0（今回13.0）と3.0ポイント悪化、中規模事業者は▲1.8（今回6.0）と7.8ポイント悪化、小規模事業者は▲18.8（今回▲8.6）と10.2ポイント悪化と、事業規模を問わず水準を下げる見込みである。

一般貨物の景況感を取扱品目別にみると、消費関連貨物は▲2.9（今回▲1.0）、建設関連貨物は▲8.3（今回2.4）、機械関連貨物は▲11.5（今回▲3.8）、その他貨物は▲11.0（今回0.5）と、全ての取扱品目において、水準を下げる見込みである。

一般貨物の景況感を地域別にみると、全ての地域において水準を下げる見込みである。

3. 一般貨物の概況



【調査の概要】

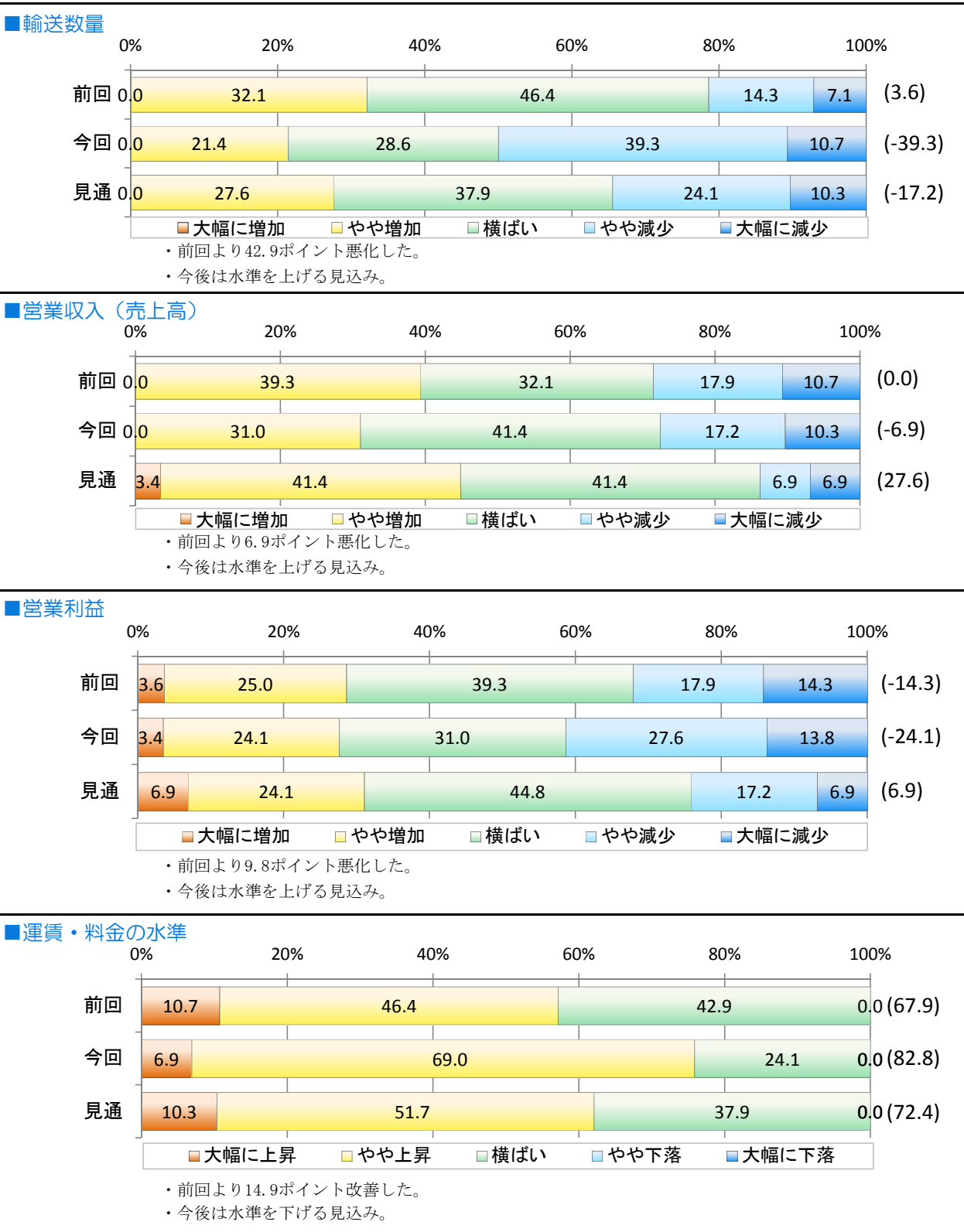
平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第100回調査は、平成30年1月5日に、モニターに対して調査開始。平成30年1月31日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者全体
74	551	580

※一部回答事業者の重複あり

4. 特積貨物の概況

① 宅配貨物



(注1) 各グラフの上段は前回(H29.7月～9月期)の状況、中段は今回(H29.10月～12月期)の状況、下段は今後(H30.1月～3月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比を集計している。

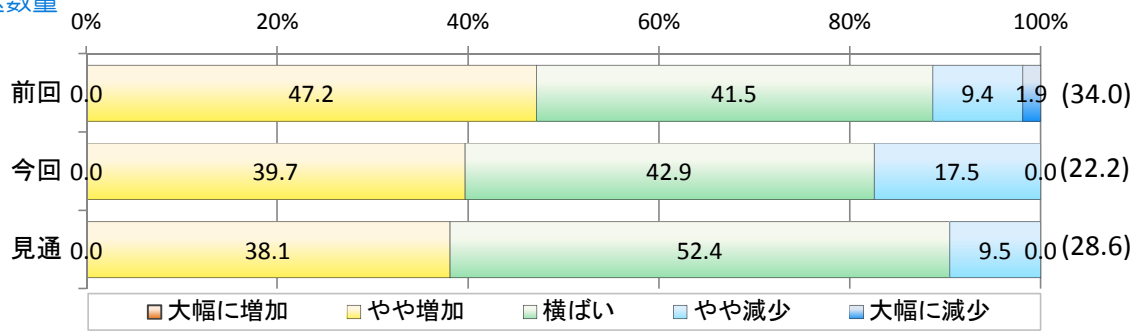
(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、大幅に増加・上昇・好転、労働力不足+2、やや増加・上昇・好転、労働力不足+1、横ばい0、やや減少・低下・悪化、労働力過剰-1、大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰~-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

A(設問Aの回答者数) = a1+a2+a3+a4+a5 (設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

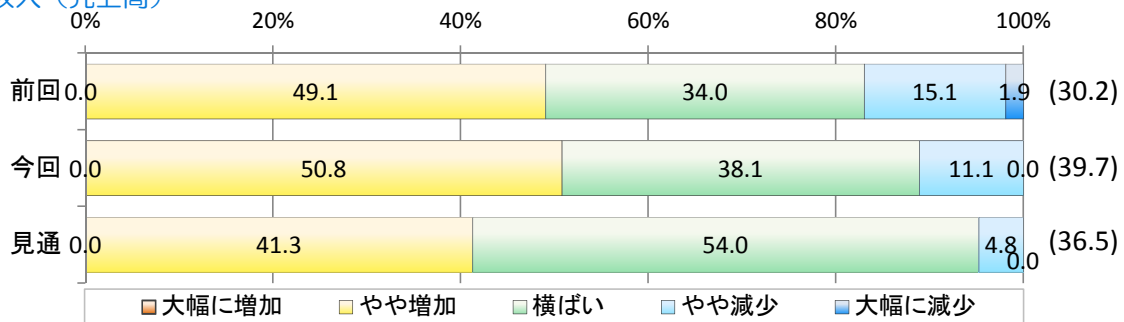
② 宅配以外の特積貨物

■ 輸送数量



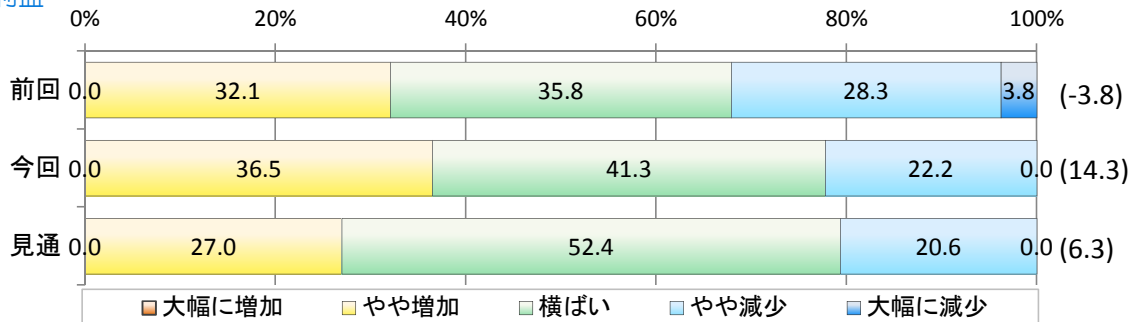
- ・ 前回より11.8ポイント悪化した。
- ・ 今後はやや水準を上げる見込み。

■ 営業収入（売上高）



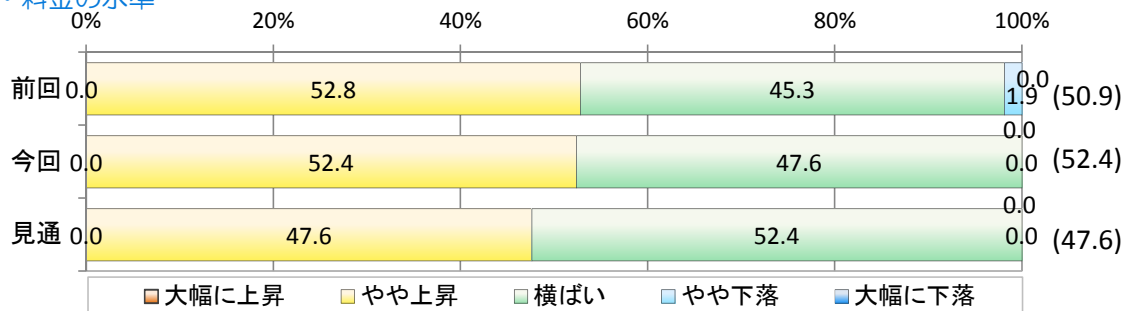
- ・ 前回より9.5ポイント改善した。
- ・ 今後は水準を僅かに下げる見込み。

■ 営業利益



- ・ 前回より18.1ポイント改善した。
- ・ 今後は水準をやや下げる見込み。

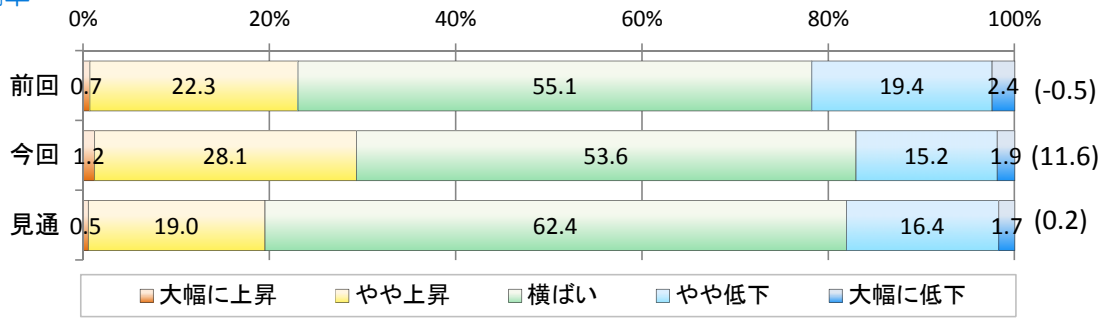
■ 運賃・料金の水準



- ・ 前回より1.5ポイント改善した。
- ・ 今後は水準をやや下げる見込み。

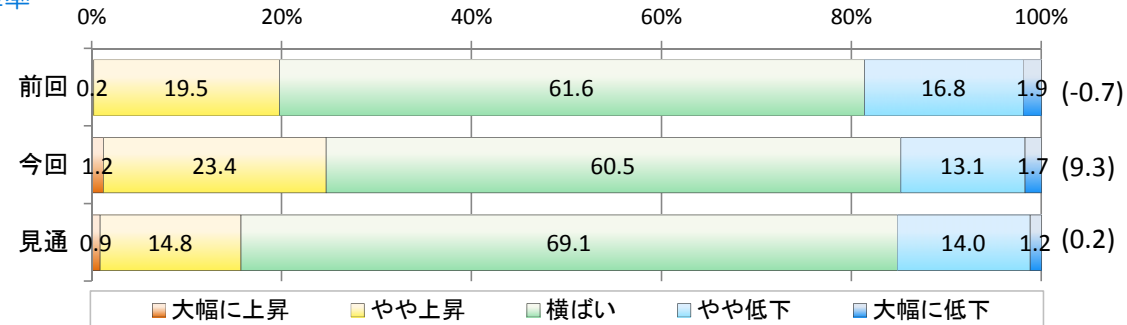
5. 共通の概況

■実働率



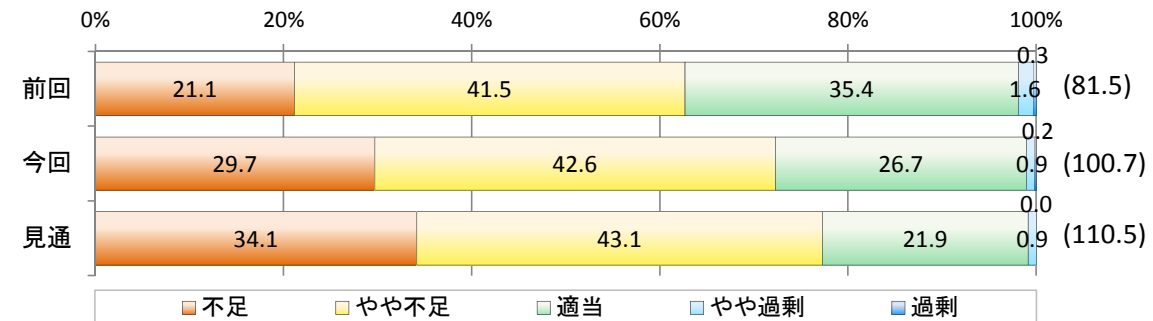
- ・前回より12.1ポイント改善した。
- ・今後は水準を下げる見込み。

■実車率



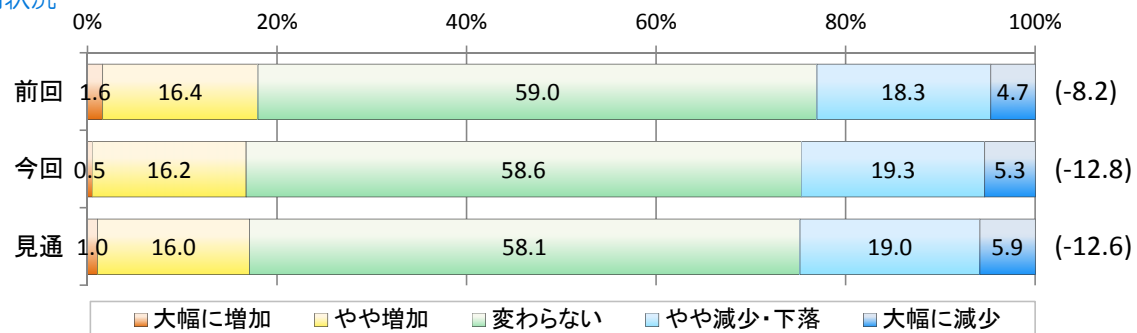
- ・前回より10.0ポイント改善した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。

■雇用状況（労働力の過不足）^(注4)



- ・前回より19.2ポイント上昇した(不足感が強くなった)。
- ・今後は水準を上げる見込み。

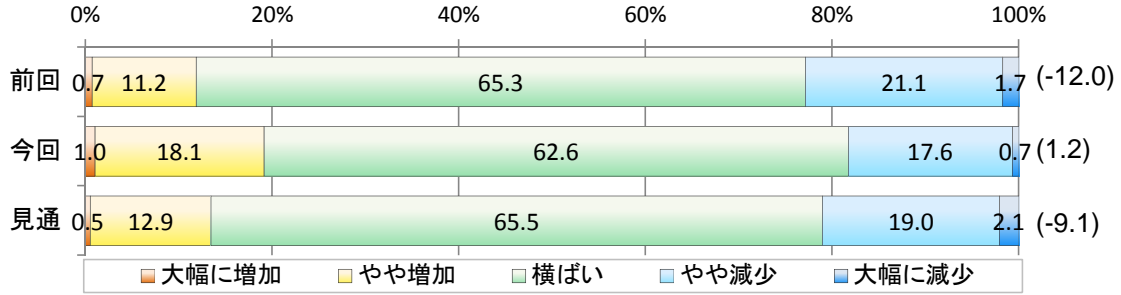
■採用状況



- ・前回より4.6ポイント低下した。
- ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

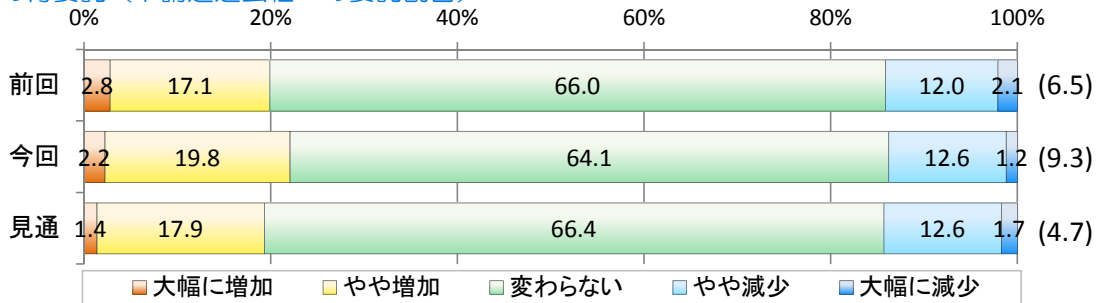
(注4)雇用状況については、上段は前回(H29.7月～9月期)の状況、中段は今回(H29.10月～12月期)の状況、下段は今後(H30.1月～3月期)の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を集計している。

■ 所定外労働時間



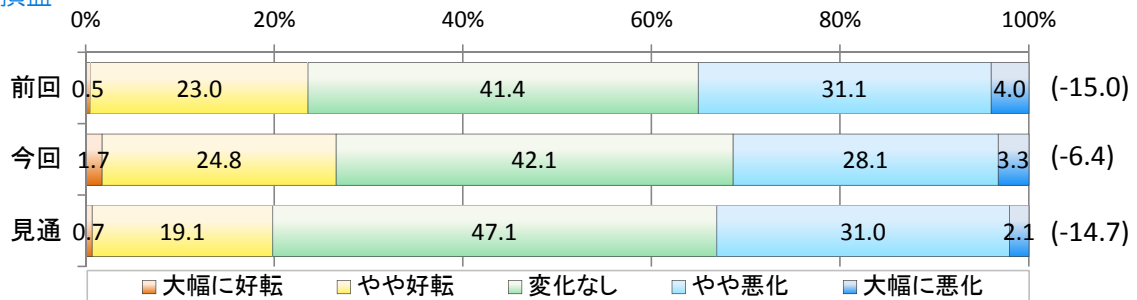
- ・ 前回より13.2ポイント増加した。
- ・ 今後は水準を下げる見込み。

■ 貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）



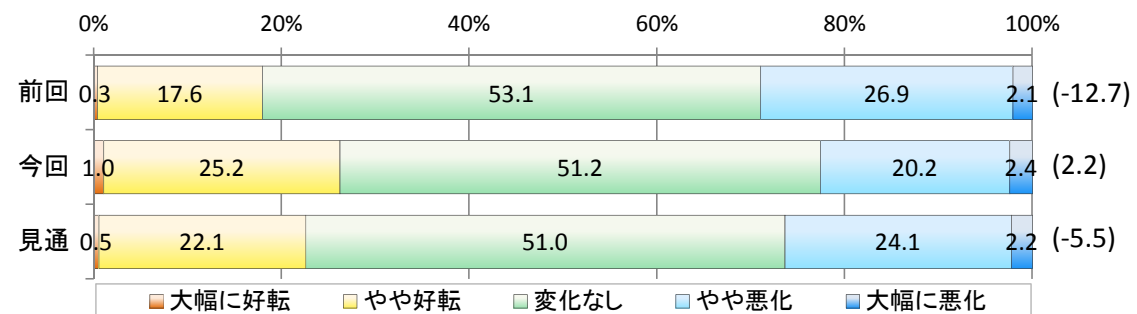
- ・ 前回より2.8ポイント増加した。
- ・ 今後は水準をやや下げる見込み。

■ 経常損益



- ・ 前回より8.6ポイント改善した。
- ・ 今後は水準をやや下げる見込み。

■ 業界の景況感

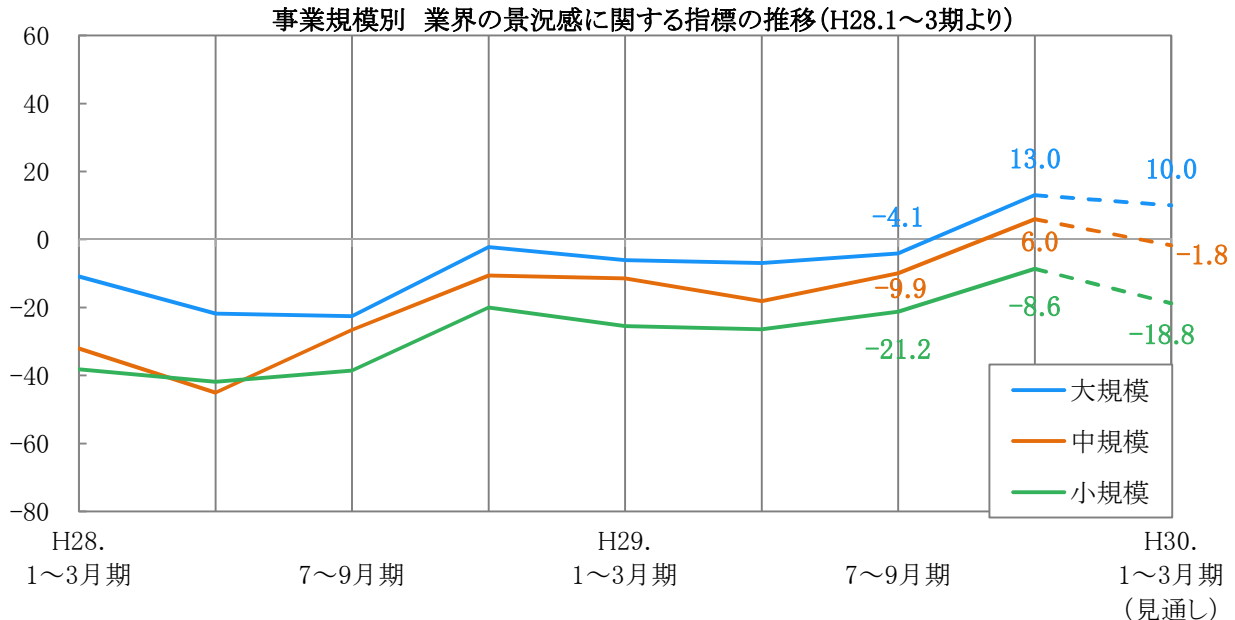


- ・ 前回より14.9ポイント改善した。
- ・ 今後は水準をやや下げる見込み。

6. 事業者特性別の特徴

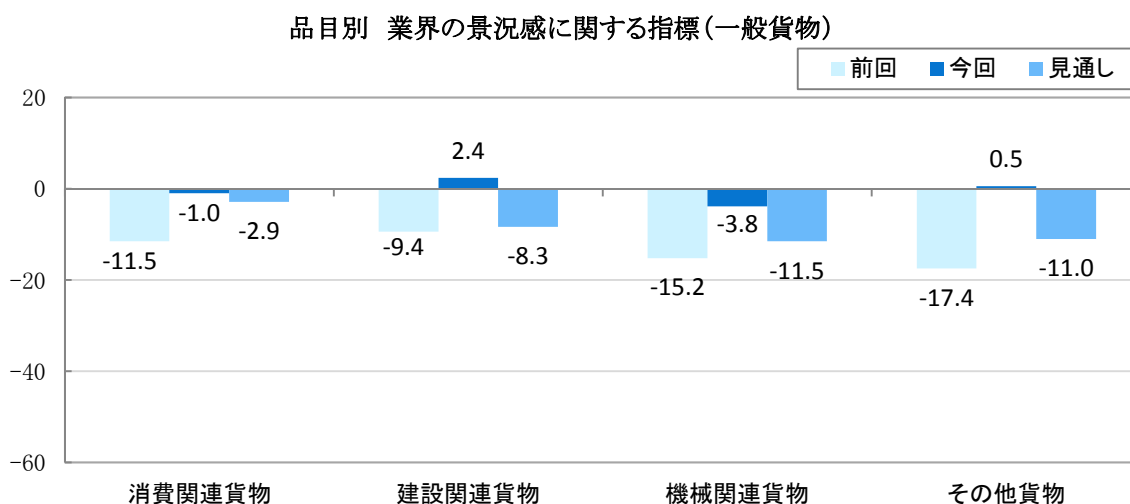
① 規模 (注5)

- ・大規模事業者：13.0（前回▲4.1）と、17.1ポイント改善、今後は10.0と3.0ポイント下げる見通し。
- ・中規模事業者：6.0（前回▲9.9）と15.9ポイント改善、今後は▲1.8と7.8ポイント下げる見通し。
- ・小規模事業者：▲8.6（前回▲21.2）と12.6ポイント改善、今後は▲18.8と10.2ポイント下げる見通し。



② 品目 (注6)

- ・「消費関連貨物」：▲1.0（前回▲11.5）と10.5ポイント改善、今後は▲2.9と1.9ポイント下げる見通し。
- ・「建設関連貨物」：2.4（前回▲9.4）と11.8ポイント改善、今後は▲8.3と10.7ポイント下げる見通し。
- ・「機械関連貨物」：▲3.8（前回▲15.2）と11.4ポイント改善、今後は▲11.5と7.7ポイント下げる見通し。
- ・「その他貨物」：0.5（前回▲17.4）と17.9ポイント改善、今後は▲11.0と11.5ポイント下げる見通し。



(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上 中規模事業者：21両以上100両以下 小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

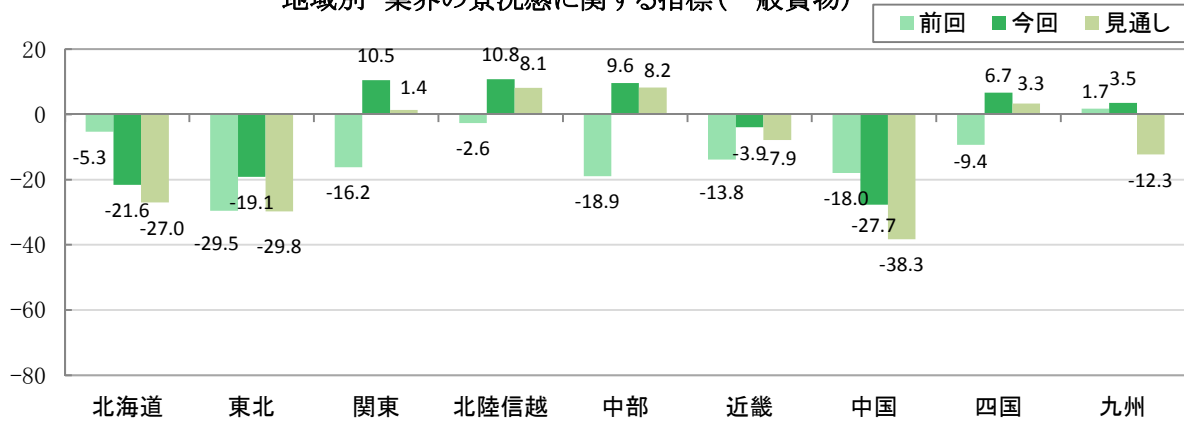
その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

③ 地域 (注7)

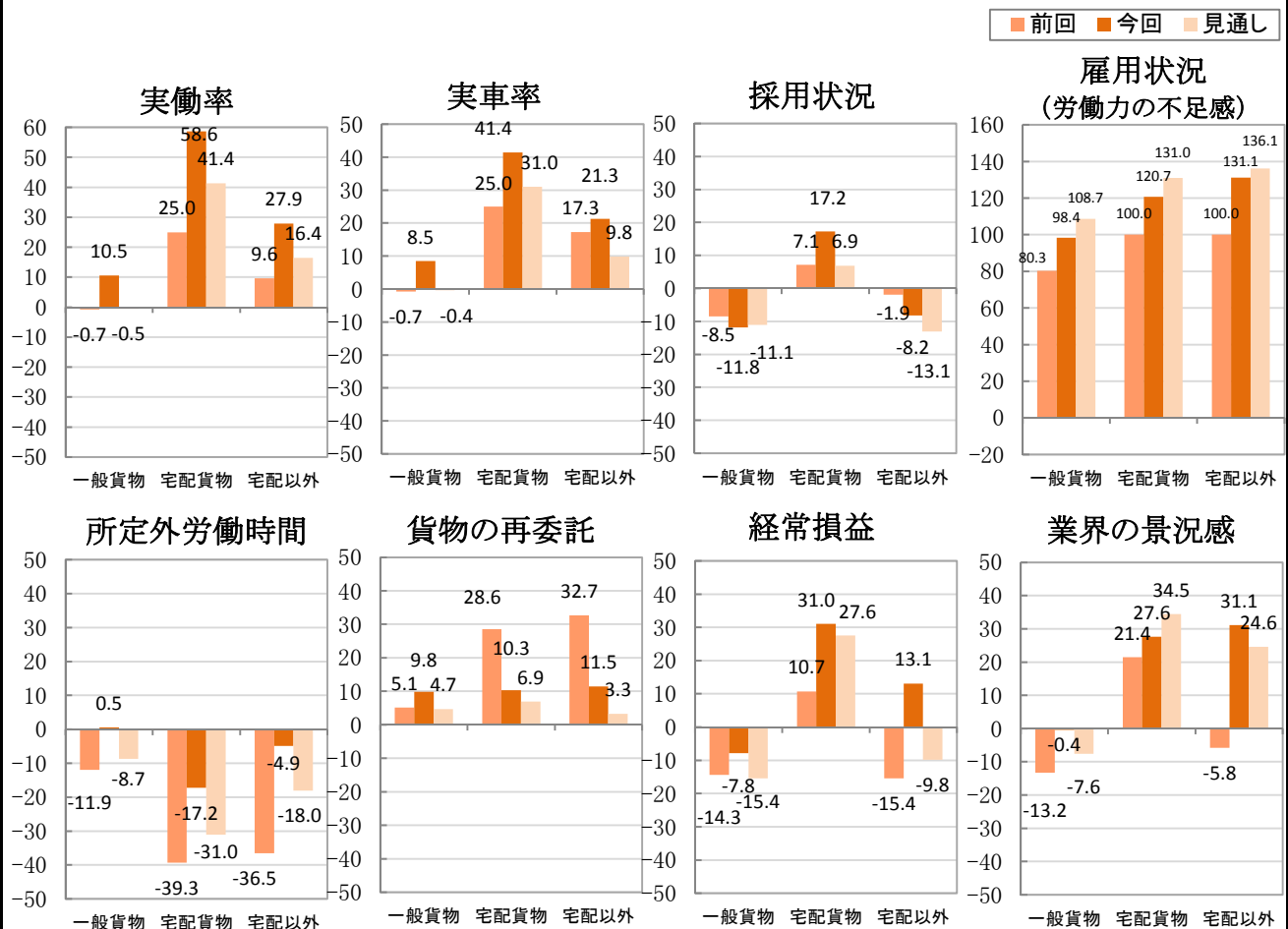
- ・一般貨物について景況感を地域別にみると、東北、関東、北陸信越、中部、近畿、四国、九州は水準を上げているが、北海道と中国は水準を下げている。
- ・来期（平成30年1月～3月期）の景況感は、全ての地域において水準を下げる見込みである。

地域別 業界の景況感に関する指標（一般貨物）



④ 事業形態別 (注8)

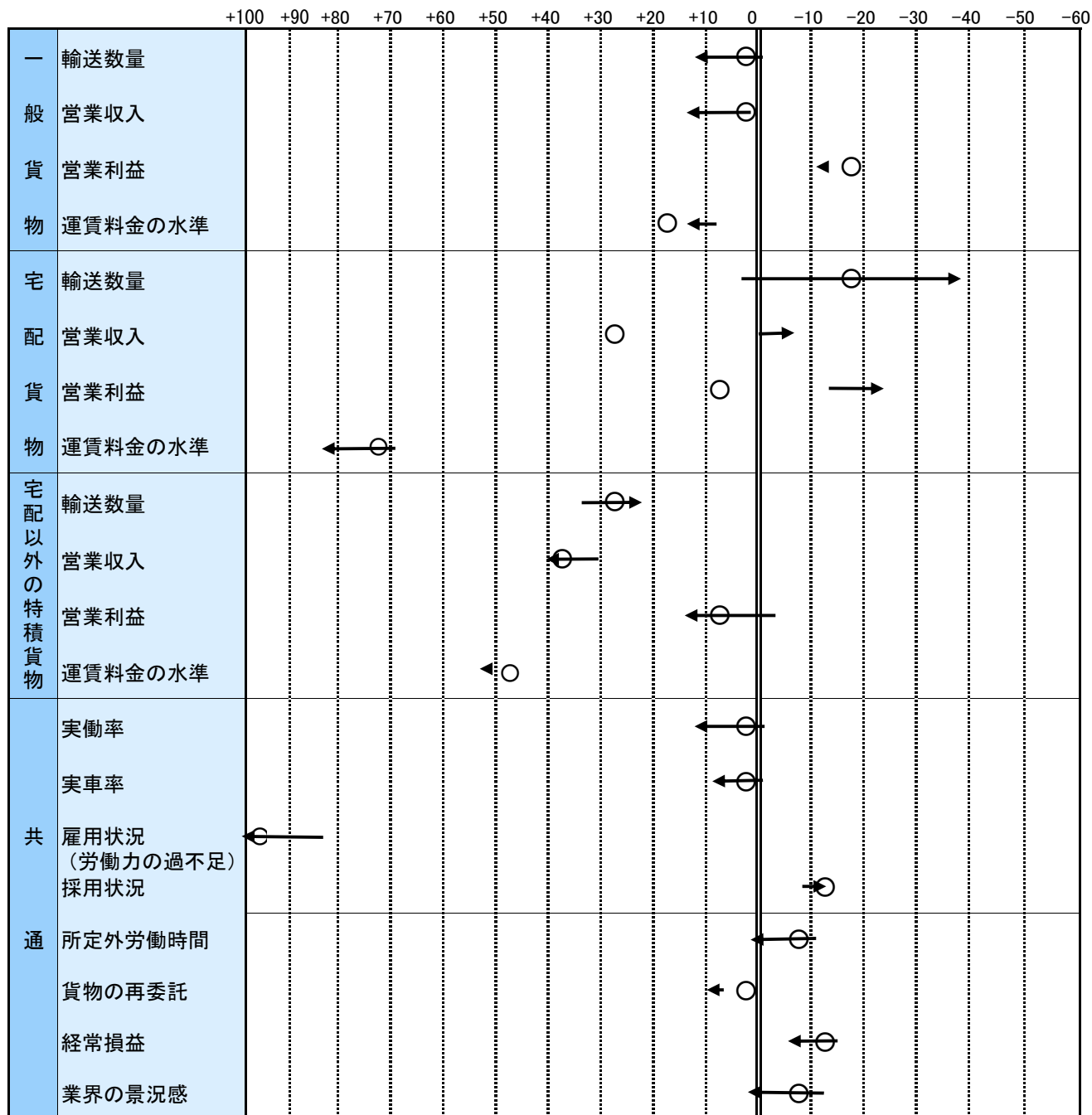
- ・「一般貨物」、「宅配貨物」、「宅配以外貨物」の全てにおいて、労働力の不足感が一段と強まったものの、実働率及び実車率（輸送効率）が改善したことから経常損益及び景況感は好転した。今後（平成30年1月～3月期）は労働力の不足感が一段と高まるなかで、実働率及び実車率（輸送効率）は悪化することから、経常損益は悪化する見込みである。
- ・今回の景況感は、「一般貨物」、「宅配」、「宅配以外」の全てにおいて改善した。今後の景況感は、「一般貨物」は▲7.6（今回▲0.4）、「宅配以外貨物」は24.6（今回31.1）と水準をやや下げ、「宅配貨物」は34.5（今回27.6）と水準をやや上げる見込みである。



(注7) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注8) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「宅配貨物」「宅配以外の特積貨物」である。

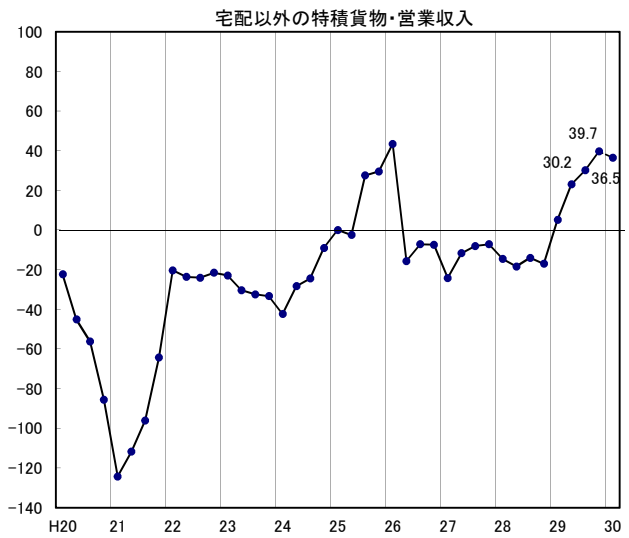
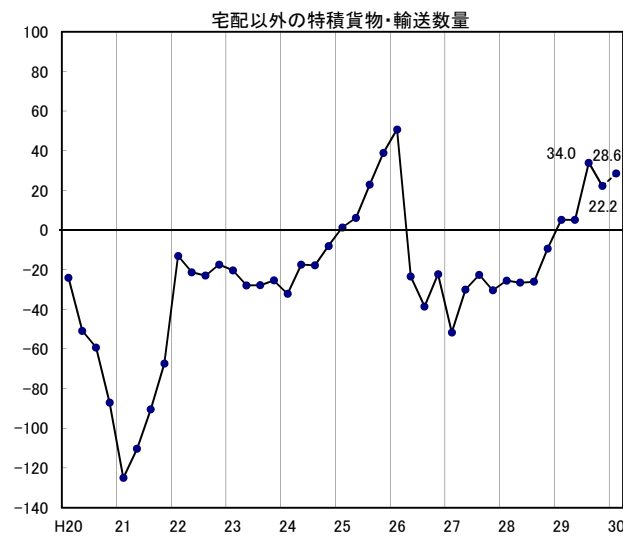
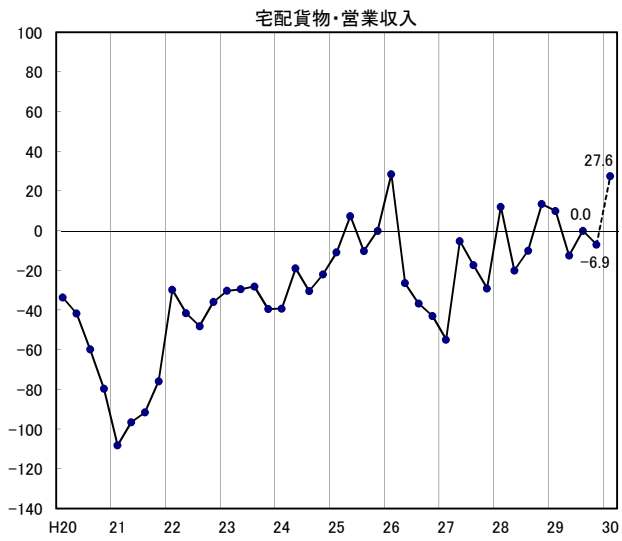
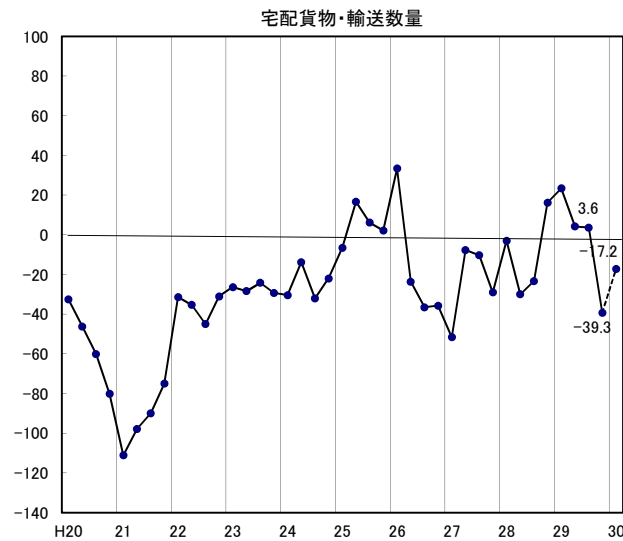
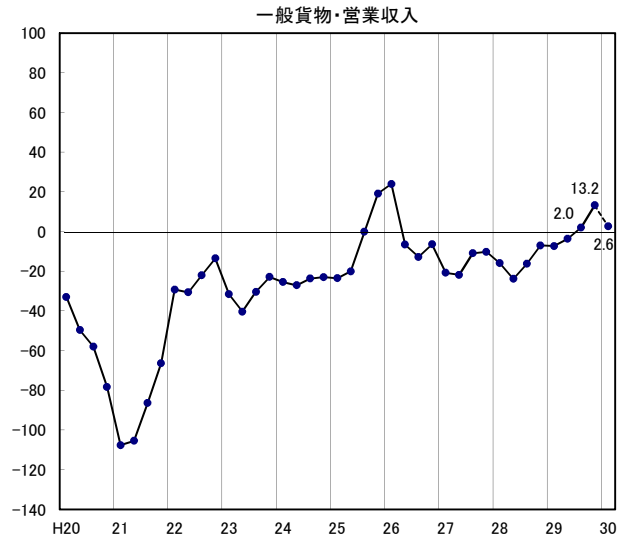
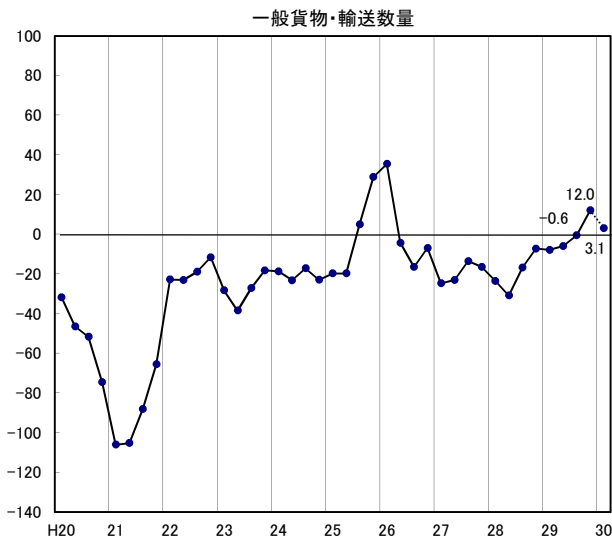
7. 業況判断指標の前回調査（平成29年7月～9月期）からの変化



凡例
 矢元：7-9月期の実績
 矢先：10-12月期の実績
 白丸：1-3月期の見通し

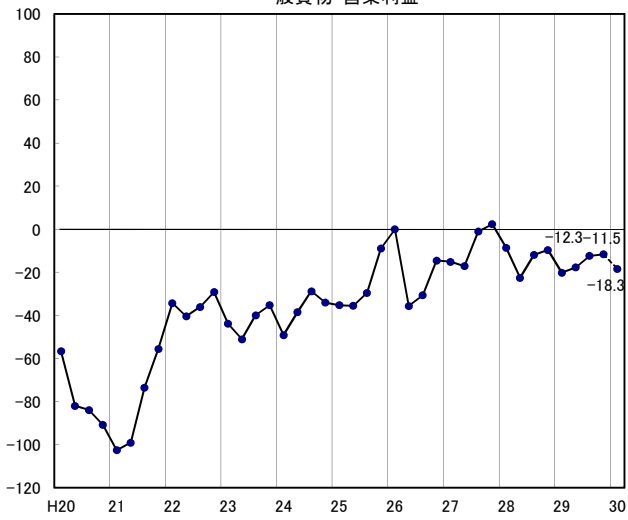
8. 業況判断指標の推移

平成20年～平成30年第1四半期見通し

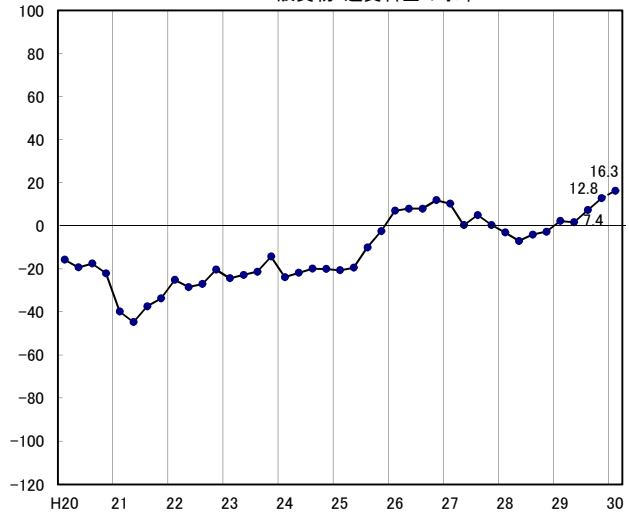


平成20年～平成30年第1四半期見通し

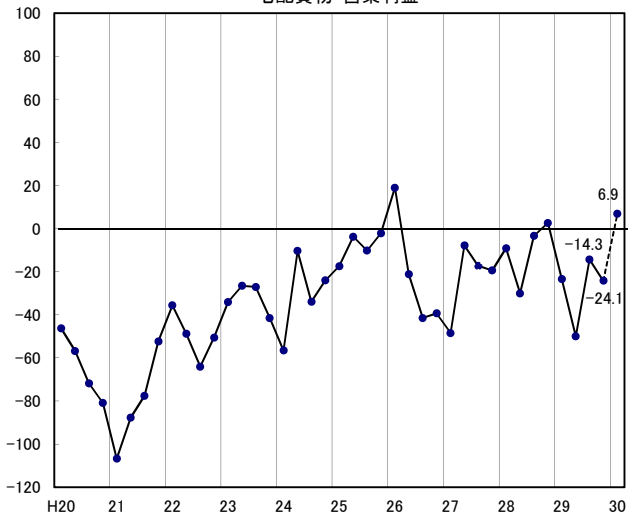
一般貨物・営業利益



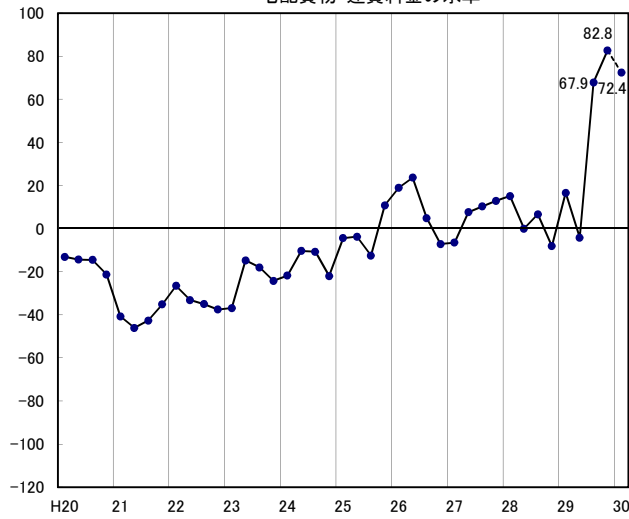
一般貨物・運賃料金の水準



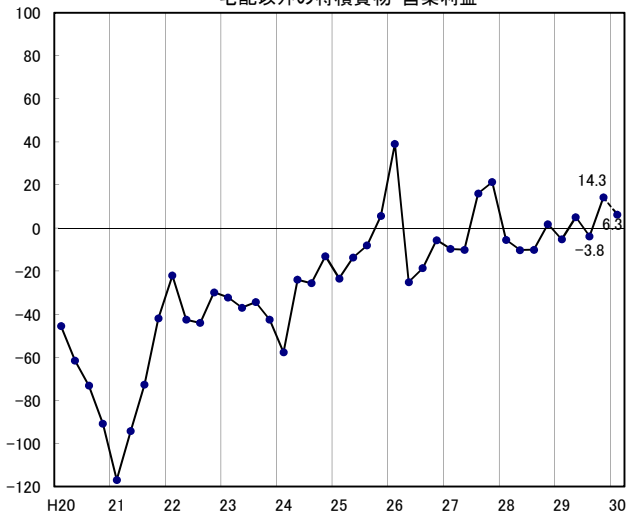
宅配貨物・営業利益



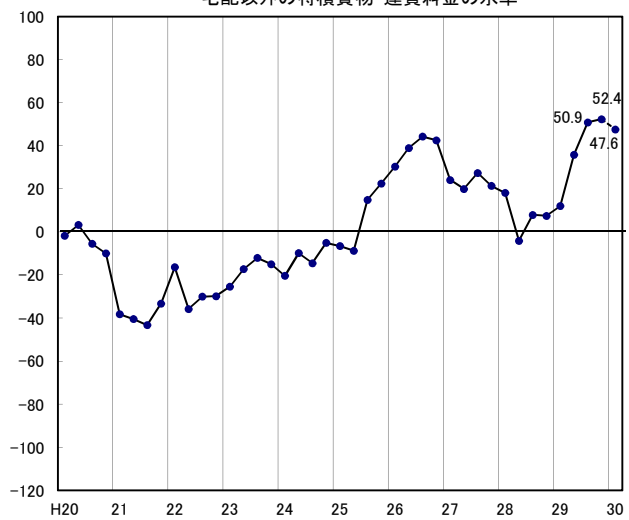
宅配貨物・運賃料金の水準



宅配以外の特積貨物・営業利益

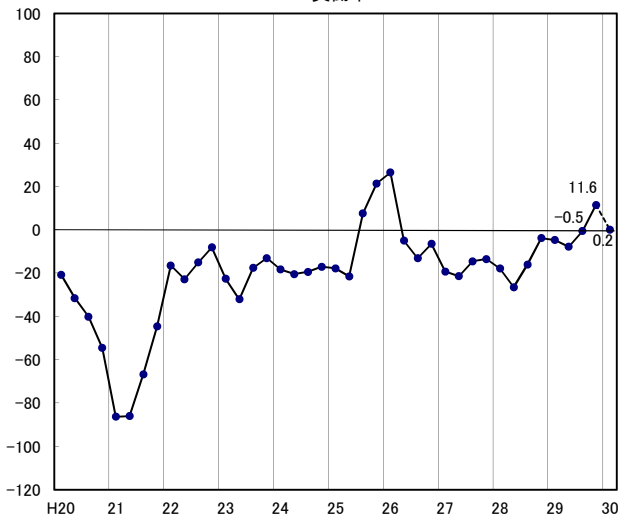


宅配以外の特積貨物・運賃料金の水準

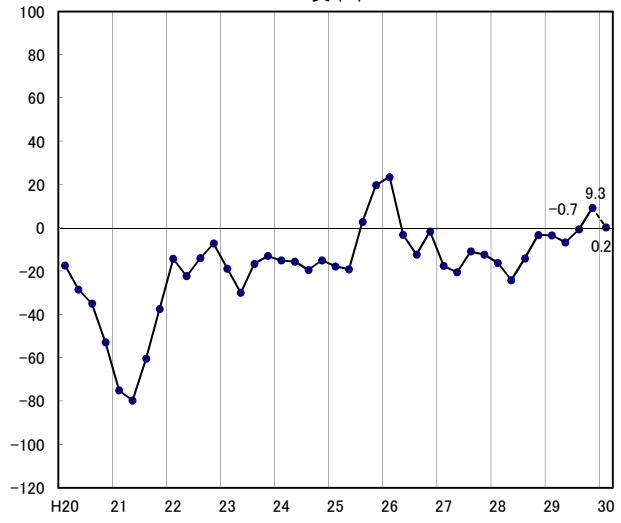


平成20年～平成30年第1四半期見通し

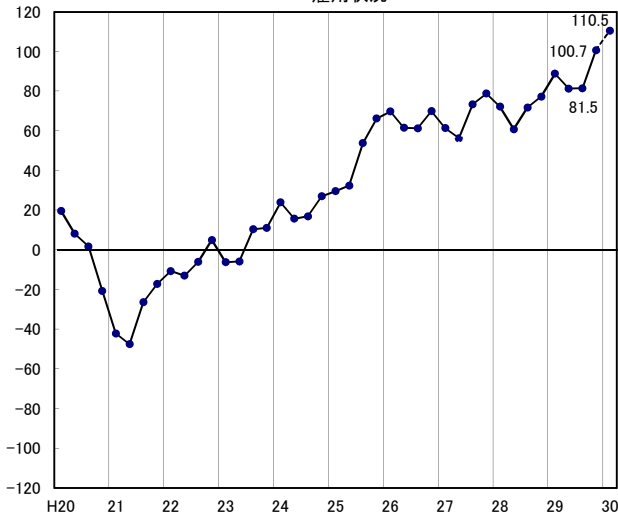
実働率



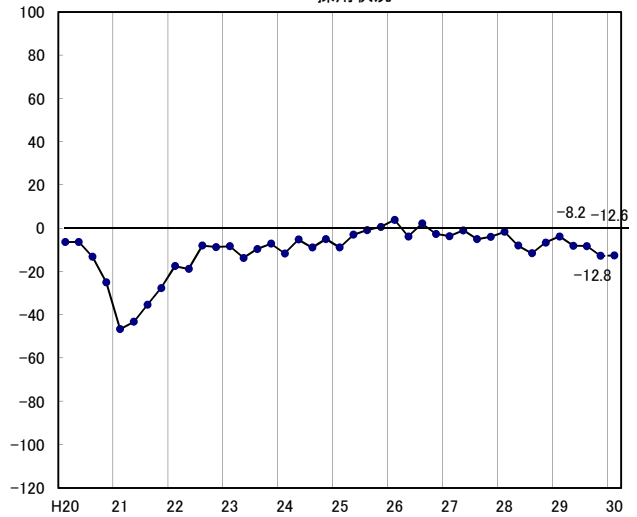
実車率



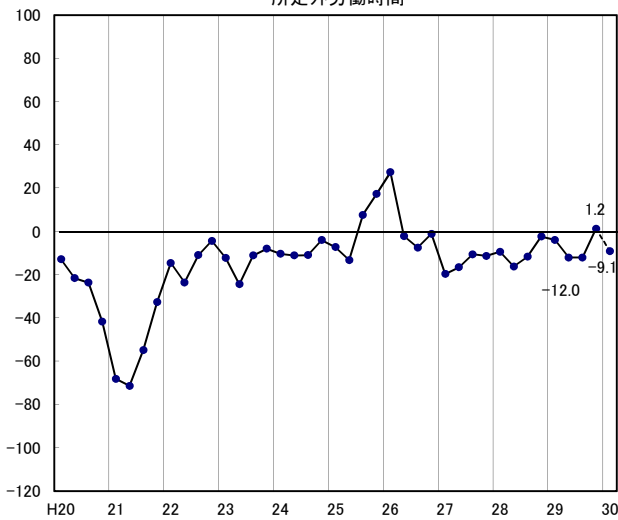
雇用状況



採用状況

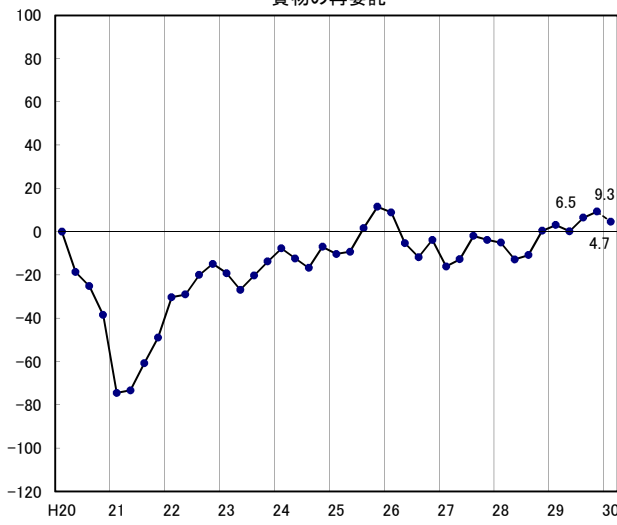


所定外労働時間

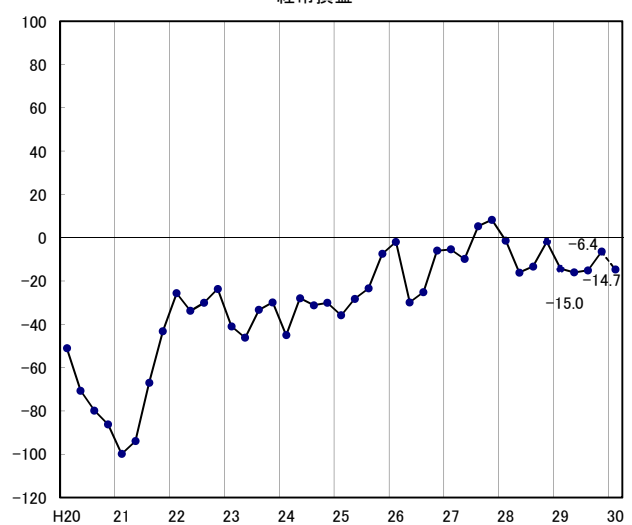


平成20年～平成30年第1四半期見通し

貨物の再委託



経常損益



業界の景況感

